

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋大学大学院医学系研究科（総合医学専攻）						
教育プログラム・コース名	先進がん治療開発研究コース（正規課程）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、薬剤師、医療職以外						
修業年限（期間）	総合医学専攻博士課程 4年						
養成すべき人材像	大学院正規課程で腫瘍学の基礎研究を学び、個別化医療を推進するため、分子標的薬やコンパニオン診断薬、がん免疫療法、遺伝子治療薬等の創薬研究や新たな治療法の開発を担う医師等の人材。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>主専攻科目 16単位（選択必修科目） セミナー10単位及び実験研究6単位</li> <li>特徴あるプログラム<sup>※</sup>を4コース以上にわたり合計20回以上受講必修</li> <li><sup>※</sup>一定のテーマにそった連続講義で構成される学内教育プログラム</li> <li>副専攻科目または広領域専攻科目から10単位以上（選択必修科目）</li> <li>基礎科目 4単位（必修科目） <ul style="list-style-type: none"> <li>基盤医学特論 2単位 特論を15回以上受講</li> <li>基盤医科学実習 2単位 ベーシックトレーニングを最低4コース履修（1コース 0.5単位）</li> </ul> </li> <li>いずれも担当教員と実地修練の担当者による論文指導を受けた上で、教授会が行う論文審査に合格する。</li> </ul>						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> <li>主専攻科目（選択必修）：腫瘍生物学、分子細胞免疫学、分子腫瘍学、腫瘍病理学等の抗腫瘍薬の創薬や新治療を研究する科目より選択</li> <li>特徴あるプログラム「先進がん治療開発研究」 15講義のうち10回以上を必須</li> <li>基盤医科学実習ベーシックトレーニング「先進がん治療開発研究」実習 2コース必須</li> <li>人を対象とする臨床研究は、参加施設の生命倫理委員会の承認を得た後に、関連するガイドラインに則り進める。公正研究・生命倫理・情報セキュリティ・利益相反に関する講義の受講を必須とする。</li> </ul>						
がんに関する専門資格との連携	直接関連する資格はない						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>医学系研究科では腫瘍医学関連のコースを含めて13の大学院コース（特徴あるプログラム）を開講しており、招待講演を合わせ年間200コマ以上の特論講義、70コース以上のベーシックトレーニングを開講している。これら既存のプログラムの仕組みを利用して本事業のために新たにコースを設置する。</li> <li>特徴あるプログラムの既存「がんサイエンス」コースを分子標的薬やコンパニオン診断薬、がん免疫療法、CAR-T、遺伝子治療薬等、NGS（次世代シーケンシング）、遺伝統計学、メタゲノミクス、遺伝情報データベース検索などシステム生物学について系統的に学習できるよう大幅に再編成して「先進がん治療開発研究」として拡充する。</li> <li>基盤医科学実習ベーシックトレーニングは基盤手法から最先端の研究手法まで幅広い研究手法を習得できるプログラムであり、新たにRNA-seq解析、Pythonを用いた医療データ機械学習等を含めた実習「先進がん治療開発研究」を設置する。</li> <li>講義をオンライン化してオンデマンド配信することで受講しやすい環境を整備する。</li> <li>臨床研究中核病院及び橋渡し研究支援機関として新治療法を開発する人材養成の環境が整備されている。附属病院臨床研究支援部門（ARO）である先端医療開発部が行う教育事業と連携する。令和5年4月現在医師主導治験6件（がん29件）、特定臨床研究60件（同2件）、CAR-T療法の再生医療等研究2件を実施中。</li> <li>参画大学間のネットワークを活用して研究情報の共有及び集約、若手研究者の研究室間の相互交流によって有機的な連携体制が期待できる。</li> </ul>						
指導体制	主専攻科目の担当教員、本事業の担当教員ならびに本事業で雇用する特任教員、学外招聘教員によるオンデマンド講義及び実習を行う。						
修了者の進路・キャリアパス	大学やがん専門施設で、分子標的薬やコンパニオン診断薬、がん免疫療法、遺伝子治療薬等の創薬研究や新たな治療法の開発を担う医師又は研究者。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限		10	10	10	10	10	50
受入目標人数設定の考え方・根拠	過去4年間に腫瘍生物学、分子細胞免疫学、分子腫瘍学、腫瘍病理学等がん関連講座に24名入学しており、新たに毎年2名を見込み、毎年度10名に設定。						